

【21】

氏名	滝谷 泰博
学位の種類	医学博士
学位授与番号	甲 第137号
学位授与の日付	昭和39年3月31日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	肝炎の電子顕微鏡学的研究
論文審査委員	教授 小坂 淳夫 教授 平木 潔 教授 村上 栄

学 位 論 文 内 容 要 旨

第 1 編 要 旨

慢性肝炎で光顕的に増殖腫脹を認める Kupffer 細胞を電顕的に観察すると、正常例に比べ細胞膜や核膜の凹凸、滑面小胞体、空胞、糸粒体、golgy 装置等の増加を認めた。これらは Kupffer 細胞の機能亢進を示す。四塩化炭素肝障害ラットの Kupffer 細胞は腫脹し、空胞、糸粒体、小胞体等が増し、静注した蔗糖鉄は1時間後限界膜を有する空胞中に顆粒となり、特に慢性障害では原形質中に分散した粒子として認めた。1ヶ月後では正常に比べ ferritin と考えられる顆粒が多数認められた。

第 2 編 要 旨

血清 bilirubin 値 $1 \sim 2.24 \text{ mg/dl}$ の潜在性黄疸を呈する諸種肝疾患の肝生検標本を電子顕微鏡的に毛細胆管、細胞内胆汁色素沈着を中心に観察した。光顕的に胆汁色素沈着を認めない症例でも電顕的には観察できた。毛細胆管の拡張、毛細胆管に肝細胞原形質、原形質内毛細胆管等を認め、これは胆管内圧上昇を示す。一方 microvilli の腫脹離断、糸粒体、空胞による毛細胆管の狭窄乃至閉鎖の所見は胆汁の流れを阻害する。かかる両者の変化を同一症例で同時に認め、更に変性所見の強い細胞では terminalbar が開くこと等から胆汁の血中逆流が考えられる。

岡山医学会雑誌 Vol. 75 No. 11, 12 昭和38年12月31日掲載予定

論文審査の結果の要旨

滝谷泰博提出の「肝炎の電子顕微鏡学的研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

先ず活動性肝炎の指標としての星細胞反応を肝生検組織像を用いて電子顕微鏡学的に検討し、星細胞の腫脹による静脈洞の狭窄と、その細胞の機能亢進を現わす微細変化を発見している。このさいこの細胞の機能亢進所見にラッテを用いての動物実験により裏付けしている。次に肝炎時にみられる血清 bilirubin 1～2.24mg/dl 程度の潜在性黄疸の発生機序を電子顕微鏡学的に肝生検材料を用いて検討しているが、毛胆管の拡大とその microvilli の減少、胆管内圧の上昇を示す毛細管の諸変化、胆汁の流れを阻止する所見、変性の強い肝細胞では terminalbar が開いて毛胆管と細胞間隙が交通する所見などを局所的に認めたことから、潜在性黄疸の発生機序を「局所的に毛胆管の狭窄ないし閉塞を起し、毛胆管内圧が上昇し、毛胆管は細胞間隙と交通して胆汁を血中に逆流させる結果として生ずるもの」と断定している。

以上の通り本論文は全く新知見であって、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。